

# 継続は力なり

## マイケル・マクイーン The Nexgen Group創設者

お話をさせていただく前に、簡単な統計を取ってみたいと思います。

6月、モントリオールで開かれる2010年国際大会に出席される方はどのくらいいらっしゃいますか。

ニューオーリンズの2011年大会に出席しようと計画されている方はいらっしゃいますか。

2015年国際大会に出席される方はいますか。

2025年はどうでしょう。

2035年国際大会にはどなたが出席されるでしょうか。

考えてみると、面白いですね。本日は、ロータリーの将来像について皆さんに簡単にお話しさせていただきたいと思います。プログラムや方針の話ではありません。「人」についてです。今後数年、数十年に、どういった人々が世界のロータリーで活動していくのか。また指導者である皆さんが明日のロータリーをどのように築くことができるのか。

私は、人口構成の推移、若者の文化、世代の移行といった分野の研究を専門に仕事をしております。ここ数年は、世界各地の組織がY世代と呼ばれる次世代を理解し、この世代との関係を築いていくお手伝いをしてきました。

皆さんの地域でも同じかもしれませんが、オーストラリアと米国では、このY世代が少なからず批判の対象となっています。メディアは、彼らが自己中心的かつ物質主義な上に、忍耐力と礼儀を欠いていると決めつけています。

しかし、本日のお話の目的は、次世代についてもっとバランスのとれた、現実的で、ポジティブな見方を、皆さんにご紹介することです。全世界8万人の若者を3年間にわたって研究調査し、その結果を本にまとめた経験を基に、明日のリーダーについて明るい話題をお伝えしたいと思います。

今の若者の価値観や態度、期待していることを見してみると、考えが甘い、思い上がりが強い、そしてときとして人に不快感を与えかねないといった傾向があることは事実です。しかし、この世代が、世界をグローバルに捉え、野心と新しいアイデアにあふれ、テクノロジーに通じているのも事実です。このような世代の存在は単純にとらえるならロータリーにとっての朗報と言えますが、新たな課題と機会の両方を伴うものです。課題の一つには、若者を新会員としてクラブに惹きつけるということがあります。若者の多くは、ロータリーとは何であり、何のために存在するのか、何を成し遂げてきたのかを知らないから、まず、それを説明することから始めなければなりません。次に、彼らが会員となったら、指導的役割を任せ、この世代がもたらすことのできる恩恵を最大限に生かすという課題が続きますが、これは同時に新しい機会でもあります。

そこで、世界各地の指導者である皆さんにお尋ねします。地区ガバナーとして後世に何を残すことができるでしょうか。ガバナーとしての職を去るとき、各クラブは就任時に比べて、大きく、若く、生産的になっているでしょうか。これから末永くロータリーを支えていく堅固な土台をどのようにして築くことができるでしょうか。

限られた時間の中で、若い世代に、会員または指導者になってもらうための重要なポイントを3つお話ししたいと思います。

**1. 世代を超えたつながりを育む。**現代の都市社会では、世代の断絶が見られます。自分と同世代の人としか交流しないため、競争相手も尊敬する人物も同年代の人たちになってしまいがちです。ここに隠された危険性は、違う世代から学び、互いに影響しあうことの大切さが見過ごされてしまうことです。若い世代は、エネルギー、情熱、熱意を持つ一方、上の世代からの助言、知恵、指導を求めているのも事実です。

新会員やリーダーとなりうる人材の多くが、年上の世代とのつながりを求めて、ロータリーに集まってくるのをいずれ目にされることでしょう。若い人たちが心から信頼し、尊敬できる先輩世代と交流し、指導を受けられる唯一の場がロータリー・クラブ、という地域が少なくありません。

**2. 常にポジティブなフィードバックを与える。**全世界で一斉に行われた調査によると、Y世代は外からフィードバックを受け取り、認めてもらうことを重んじる世代と定義されています。その前の世代は、自分だけが目立ったり、貢献や功績を個人的に褒められることを避ける傾向にありましたが、Y世代では、肯定的に認めてあげることが意欲を高めるのに大きな威力を発揮します。

Y世代の存在を認め、的を得たフィードバックを提供するには2つのキーポイントがあります。まず、直接的に彼らの存在を認めてあげることです。テクノロジーが非常に進んだ時代に育った彼らは、個人的な触れ合いに特別な意味を見出します。手書きの一言、アイコンタクト、「よくやった」と背中を叩いてあげるといった行為が、大変重要なのです。次に、この世代の人を人前で認めてあげることが大切です。Y世代は競争心が強く、野心的な傾向にあり、人の前で感謝や表彰されるために骨身を惜しまず働く人たちです。

**3. プロセスでなく、成果に注目する。**Y世代の関心を引く3つのポイントで、一番難しく、同時に一番効果があるのがこのポイントです。「成果」と「プロセス」という2つのコンセプトを切り離して考えれば、成果は「なぜ活動するのか」ということであり、プロセスは「何をどのように行うか」ということです。成果とプロセスは表裏一体のように思われますが、組織や企業の多くがプロセスだけに偏りがちです。企業の新入社員向けの冊子や研修マニュアルは、どれもプロセスを説明したものばかりです。これをして、あれをして、次にこれをする、といった具合です。基準に沿って評価し、組織図を作り、構造や指令系統を並べ立てています。そういった組織に若者がやってきて、開口一番に聞くのは、「なぜ」という質問です。

若者のグループから出る、この典型的な「なぜ」には、2つの「なぜ」があります。一方は、「なぜそのやり方でやるのか」、そして他方は、「なぜそれをやるのか」です。

一つ目の「なぜそのやり方でやるのか」という質問は、権威に逆らうことから来るのではなく、実は革新的なアイデアの生まれる源なのだ、と、賢明な組織は既に認識し始めています。若い人たちは、新鮮な目と新しい視点を持ち、テクノロジーと現代のニーズを良く理解しているのです。

二つ目の質問、「なぜそれをやるのか」という質問も同じく大きな意味を持っています。若い会員やリーダーが、所詮自分は歯車の一つでしかないと思うようになれば、全く意欲をなくしてしまうでしょう。「生産ライン」の一角を彼らに与えるだけでなく、彼らの貢献が全体としてどのような目的につながっているのか説明しなければなりません。

指導者である皆さんに、ここで少し距離を置いてご自分の地区、そしてロータリーの組織全体を客観的に見ていただきたいと思います。皆さんが毎週、日々、地区で行っていることは、成果、ビジョン、目的意識とどれだけつながっているでしょうか。皆さんの行っていることは、初めてロータリーに入会したときの理由とどれほど結びついているでしょうか。

これとは反対に、現状を維持し、守り、自分たちのやっていることや、やり方ばかりに気を取られていることは、どれくらいあるでしょうか。それは服装規定や、会合の形式、出席規定であるかもしれませんが。あるいは文化の象徴や、過去に効果のあった手続や手順の羅列であるかもしれません。プロセスが必ずしも悪いのではな

く、プロセスが成果から離れて一人歩きを始めたとき、つまり、私たちが活動する理由を忘れてしまったときが問題なのです。

率直に言えば、これは難しい問いです。答えによっては、変化を強いられたり、新しいやり方に適応しなければならぬ場合もあります。また今後、会合や、プログラム、会員の構成がまったく違ったものになるかもしれません。こうした変化や未来の話は、面倒で厄介なものであり、気が遠くなると思われても無理のないことです。確かに、クラブや会員を未来に導くのは容易なことではありません。しかし、時代に即した組織として生き残れるかどうかは、これにかかっているのです。

2010年1月、この会場に集う皆さんは、どのようなロータリーの未来を描いておられるでしょうか。ロータリーの成功、そしてこれまで皆さんが成し遂げられたことを祝うのは素晴らしいことです。ただし、そこで終わってしまうべきではありません。リーダーの真の成功は、継承にあるのです。長期的な成功は、既に成し遂げたことや皆さんが何をするかではなく、次世代に力を与え、彼らの準備を整えることにあるのです。地区ガバナーとなられる皆さんには、ロータリーの次の100年を迎えるための土台をつくる機会が与えられているのです。

情熱と才能にあふれる若者は、皆さんの後を継ぎ、各地域社会と世界でロータリーの素晴らしい活動を続けていってくれることでしょう。ただし、彼らがそうした活動に携われるよう、導き、チャンスとゴーサインを与えることができるは、皆さんしかいないのです。

皆さまのご活躍をお祈りしております。